



年 組 名前

道新でワークシート

日米「和解の力」前面

真珠湾慰霊

首相、不戦貫く決意表明

オバマ大統領 「同盟、平和の礎」

【ホノルル西依一憲】安倍晋三首相とオバマ大統領は27日（日本時間28日）、米ハワイ・真珠湾で旧日本軍による真珠湾攻撃の犠牲者を慰霊した。両首脳は演説で、戦火を交えた日米が強固な同盟関係を築いた「和解の力」の意義を強調。首相は犠牲者に哀悼の意を示し「不戦の誓い」を貫く決意を表明した。謝罪には踏み込まなかった。オバマ氏は首相の訪問を「歴史的な行動」と歓迎した。日米首脳が真珠湾攻撃の犠牲者とともに慰霊するのは初めて。1941年の開戦から75年、日米関係は一つの節目を迎えた。

も言及し「同盟はアジア太平洋地域の平和と安定のための礎。同盟はかつてなく強固だ」と述べた。

「憎悪が最も激しく燃えさかる時でも、内向きになることに抵抗しなければならぬ」とも表明した。トランプ次期大統領が「米国内第一主義」を掲げていることを踏まえたといわれる。

アリゾナ記念館は真珠湾攻撃で沈んだ米戦艦アリゾナの上に62年に開設された追悼施設で、現職首相として同記念館で慰霊するのは安倍首相が初めて。

両首脳は同日、太平洋戦争の発端となった真珠湾攻撃の犠牲者を追悼する「アリゾナ記念館」を訪れ、献花し黙とうした。その後、真珠湾に臨むキロ埠頭で演説。過去の敵対関係を乗り越えた「未来志向」の同盟関係を発信し、国際社会が抱える問題解決に主導的役割を果たす考えを示した。

首相は演説で、敗戦国日本に物資を送り、国際社会復帰に導いた米国の寛容さに謝意を表し「私たちが結びつけたものは、寛容の心がもたらした『和解の力』

だ」と主張。世界で戦争による憎悪の連鎖が続いていることに触れ「寛容の心、和解の力を世界は今こそ必要としている」と述べた。昨年4月の米議会演説では第2次大戦について「深い悔悟」との表現を使ったが、今回は直接の謝罪や反省には言及しなかった。一方で「戦争の惨禍は二度と繰り返してはならない」戦後70年間に及ぶ平和国家の歩みに私たちは静かな誇りを感じながら、この不動の方針をこれからも貫いていく」と決意を示した。

真珠湾攻撃で約2400人の人命が失われたことに關しては「厳粛な事実をのみしめる時、私は言葉を失う」と語り、戦争の犠牲者に「永劫の哀悼の誠をささげる」と述べた。

オバマ氏は、首相の真珠湾訪問を「日米の和解の力を示す歴史的な行動だ」と評価。「最も激しく戦った敵同士でも、最も強い同盟をつくれる。平和で得られる成果は、戦争による略奪を常に上回る」と和解の価値を訴えた。日米同盟が国際秩序を支えてきたことに

2016年12月29日朝刊1面（記事は再編集しています）

①安倍首相は、現代の世界に必要なものは何だと訴えたか、記事から書き抜きなさい。

②日本が世界平和に貢献するために、どのようなことが重要だと思いますか。